

広報にっこう100号によせて

❖ これからも「広報にっこう」を応援しています

涼風花さん(書家・日光観光大使)

広報にっこうは、日光市の人であれば一度はどこかでご覧になった方も多いと思います。私も小さな頃から広報紙を読ませて頂いていた一人です。

栃木県の中でも市域がかなり広い日光市は、市民同士でも全く面識のない人たちが多くいますが、この広報にっこうは、市内の頑張っている人を紹介したり、市内のニュースを教えてくれたりと、日光市の人々を繋いでくれるものだと思います。

日光をもっと発展させていく上で、市民の心をつなげてくれる広報にっこうが、これからもずっと続くことを、心から応援しています！



広報モ二ターの声



てづか 手塚はるみさん(鬼怒川温泉大原)

広報にっこう100号、おめでとうございます。イベントや政策など、市の情報をいろいろと知ることができるので、いつも楽しみにしています。改善して欲しい点は、行政の取り組みについての説明が難しく、分かりづらいことです。

私は、さまざまな分野で活躍している人の話が聞きたいと思っていますので、これからも地域の活動や人々の声を届けてください。

読者の声



こいけあきら 小池秀明さん(稲荷町一丁目)

❖ 市民が行政に参加しやすい情報公開を!!

最近の広報紙は見やすさが向上し、担当者のいろいろな工夫の跡がうかがえます。行政運営には、情報の公開と市民の参加が必要です。正しい情報がないと意見を言うこともできません。読者である市民が行政参加しやすくするため、広報紙による分かりやすい情報公開をお願いします。



いわたかずお 伊藤和子さん(高德)

❖ お年寄りも紹介してくれるとうれしいです!!

広報紙は、いろいろなイベントや行政情報が載っているの助かっています。好きなコーナーは「ハイチーズ」で、毎号、どんな赤ちゃんが登場するのか楽しみにしています。できれば、「こんなおばあちゃんも頑張っているよ」というお年寄りのコーナーもあるとうれしいです。



❖ 今後も市民の皆さんと共に

秘書広報課長 宮下浩美

5市町村が合併してから、早くも7年余りが経過し、広報紙の発行回数も100号を数えるに至りました。平成18年3月20日の合併に感動し、新しいまちが誕生したことが、昨日のことのようです。

ここで、あれ? と思った方もいらっしゃるでしょう。7年と3カ月、毎月1回の発行では、100号にはなりません。合併当初、最初の1年は月2回の発行でした。広報紙を編集する私たちも、いろいろと研究しながら皆さんに読んでもらえる紙面づくりに心がけています。

市民の皆さんの日々の活動が積み重なって紙面を作り、市の業務が役割としてその側面を飾る。編集する職員一同、皆さんのご協力を得ながら、今後も広報活動に頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



毎月1回、市が発行する「広報にっこう」は、平成18年4月の創刊号から数えて、今号で100号を迎えました。
これからも皆さんの一番身近な情報紙として、市政や暮らしの情報を分かりやすく伝えていきます。

市民の皆さんと共に歩んで 100号

25号(平成19年4月号)

この号から月1回の発行になりました

表紙「県立足尾高等学校閉校式」

創刊号(平成18年4月号)

市町村合併後、最初の広報紙。当時は月2回の発行でした

表紙「子育て支援センター」

98号(平成25年5月号)

ページ数を32ページから36ページに増やし、リニューアルしました

表紙「オーロラファンタジー」

62号(平成22年5月号)

表紙と裏表紙以外のページを、黒と1色から黒のみにリニューアルしました

表紙「川治小中学校閉校式」

50号(平成19年5月号)

創刊から数えて、この号で50号を迎えました

表紙「手打ちそば早食い選手権」

表紙で振り返る
「広報にっこう」
のあゆみ